

無人航空機を利用した、波浪観測情報取得手法の高度化

事業概要（フェーズ 1）

内容

無人航空機（UAV）と飛行艇型ドローンを活用し、広範囲の波浪観測情報を高精度かつ低コストで取得し、海洋の利用促進や自然災害対策、環境保全を目指す。フェーズ1では、システムの構築とデータ取得技術の開発を行う。

背景・経緯

従来の波浪観測は固定ブイや沿岸設置に依存し、観測範囲が限定的であり、設置・維持コストが高かった。これらの課題を解決するため、移動可能なドローンシステムを開発する。

狙い、波及効果

港湾管理、海洋研究、災害対策、水産業、洋上エネルギー産業などにおいて、安全性向上や業務効率化を促進し、1000億円規模の経済効果を見込む。

事業化

市場は国内外をターゲットとし、無人航空機を用いた波浪観測システムの事業化を目指す。設置・維持コストの大幅な削減を可能にし、政策課題への対応力を強化する。



株式会社スペースエンターテインメントラボトリー

本社所在地	福島県南相馬市 原町区 萱浜巣掛場 45-245
設立／資本金	2014年7月 / 25,500千円
従業員数	14名（2024年9月現在）
事業内容	無人航空機に係る事業

その他機関

機関名：国立大学法人横浜国立大学

・海空制御システム研究室が波浪計測用ブイの開発、波浪スペクトル解析、ドローンの伝達関数同定などの研究を担当する。